

高知県の地震

目 次

高知県の地震活動

震央分布図及び断面図	1
地震概況	1
高知県で震度1以上を観測した地震と各地の震度	2
高知県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	3

地震一口メモ

「液状化」について	4
-----------	---

※「高知県の地震」は月1回発行するもので、高知県及びその周辺の地震活動状況をお知らせすると共に、適宜、社会的に関心の高い地震について解説します。また、「地震一口メモ」で地震防災知識等の普及に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査された後に修正されることがあります。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

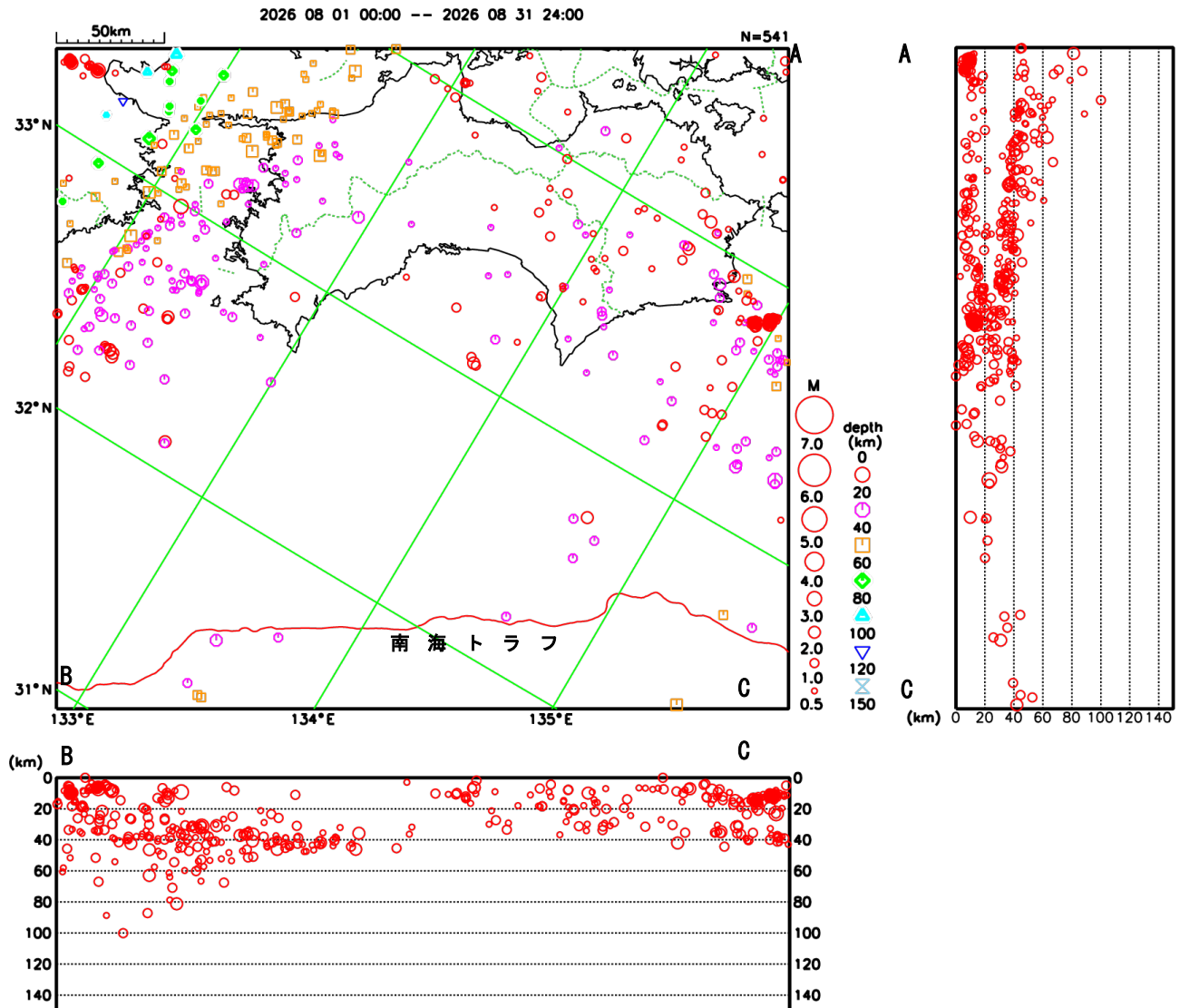
2026年(令和8年)8月

高知地方気象台

高知県の地震活動

「震央分布図及び断面図」

(2026年8月1日～8月31日)



震央分布図では、地震の規模を示すマグニチュード(M)はシンボルの大きさと表しています。震源の深さはシンボルの形と色を深さに応じて変えて表しています。右上の「N」は図中に表示しているシンボルの数(地震の回数)、右の「depth」は地震の深さの凡例を示しています。

断面図(右図及び下図)は、震央分布図範囲内の地震の北北西-南南東(A-C)方向断面図(右)と西南西-東北東(B-C)方向断面図(下)を表し、それぞれの地震の震源の垂直分布を表しています。

「地震概況」

2026年(令和8年)8月に、高知県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回でした(前月は7回)。

1日21時47分、熊本県熊本地方の地震(深さ11km、M4.7、震央分布図外①)により、宿毛市・黒潮町で震度1を観測しました。また、熊本県で震度5弱を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度4～1を観測しました。

2日04時10分、日向灘の地震(深さ21km、M5.3、震央分布図外②)により、宿毛市で震度2、黒潮町で震度1を観測しました。また、大分県・宮崎県で震度3を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度2～1を観測しました。

12日13時05分、熊本県天草・芦北地方の地震(深さ13km、M5.0、震央分布図外③)により、宿毛市で震度1を観測しました。また、長崎県・熊本県で震度4を観測したほか、中国・九州地方で震度3～1を観測しました。

注) 地震概況にある数字は、「震央分布図」、「地震の表」及び「震度分布図」の番号に対応しています。

「高知県で震度 1 以上を観測した地震と各地の震度」

2026 年 8 月

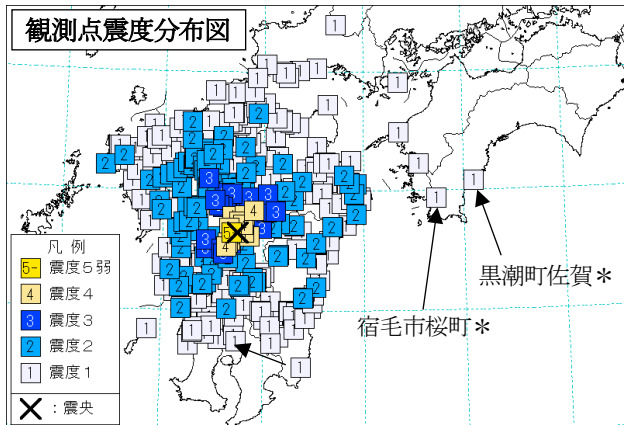
発震時刻（年月日時分） 各地の震度（高知県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
① 2026 年 08 月 01 日 21 時 47 分 高知県 震度 1：宿毛市桜町＊、黒潮町佐賀＊	熊本県熊本地方	32° 38.8' N	130° 44.8' E	11km	M4.7
② 2026 年 08 月 02 日 04 時 10 分 高知県 震度 2：宿毛市桜町＊ 震度 1：黒潮町佐賀＊	日向灘	31° 57.1' N	132° 01.4' E	21km	M5.3
③ 2026 年 08 月 12 日 13 時 05 分 高知県 震度 1：宿毛市桜町＊	熊本県天草・芦北地方	32° 30.9' N	130° 32.5' E	13km	M5.0

注）観測点名の＊印は、気象庁以外（高知県または国立研究開発法人防災科学技術研究所）の震度観測点です。

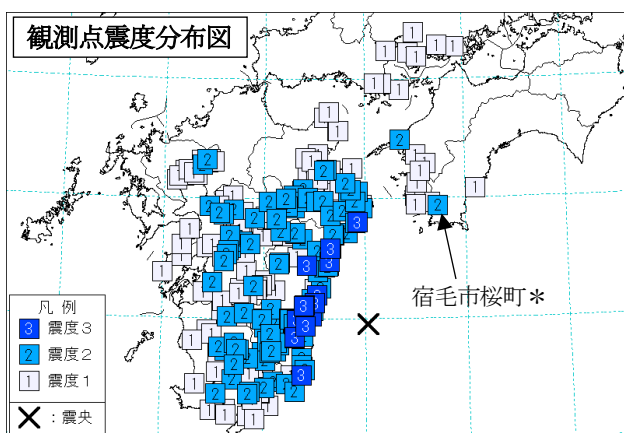
「高知県で震度1以上を観測した地震の震度分布図」

2026 年 8 月

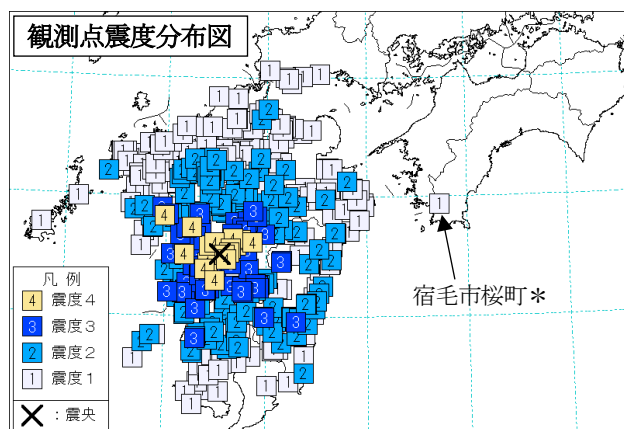
① 2026 年 08 月 01 日 21 時 47 分 熊本県熊本地方 深さ 11km M4.7



② 2026 年 08 月 02 日 04 時 10 分 日向灘 深さ 21km M5.3



③ 2026 年 08 月 12 日 13 時 05 分 熊本県天草・芦北地方 深さ 13km M5.0



注) 観測点震度分布図には、県内で最も大きい震度を観測した観測点名を記載しています。

観測点名の*印は、気象庁以外(高知県または国立研究開発法人防災科学技術研究所)の震度観測点です。

「地震一口メモ」

「液状化」について

本年7月の令和8年熊本地震の発生からしばらく時間が経過しましたが、震源域に近い、熊本市や八代市などでの液状化による被害が報道されるようになってきました。今回は地震による強い揺れに起因する災害の一つである「液状化」について解説します。

○液状化とは

図1は液状化発生の模式図です。

普段、水を多く含んだ地盤は①のように砂粒同士が支えあい、その間を水で満たされている状態で落ち着いています。

地震により強い振動が加えられると、②のように砂粒の支えあいが崩れ、水と砂粒が一体となり液体のようになります。また、水が砂とともに噴出する噴砂現象も発生します。

水が砂と共に地表へ噴出すると、③のように沈下・亀裂・陥没などの地盤変形が起こります。

液状化が発生しやすい場所は、地下水位の高いゆるく堆積した砂地盤で、例えば、埋立地、干拓地などがあげられます。

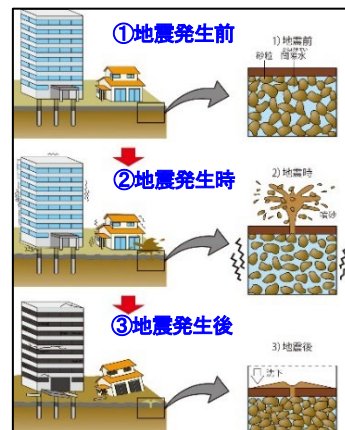


図1 液状化のしくみ
(出典：地震調査研究推進本部 HP
一部加工)

○液状化による被害

右の写真は「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の際の関東地方での液状化による被害写真です。地盤が液状化すると地上の重い構造物等は沈み、一方、比重の小さい地下埋設管やマンホールは浮き上がります。

日本では液状化によって直接的な人的被害が発生することは稀ですが、地震発生直後の数分程度で液状化による路面への影響が表れる可能性があり、避難路に段差ができるなどで避難に支障がでる恐れがあります。

また、液状化によって住宅の沈下や傾斜、道路やライフライン施設の被害が発生すると、元の生活に戻るまでに数か月～数年単位の時間がかかる深刻な影響が続く可能性もあります。



地盤沈下による水槽の傾き 歩道の陥没・マンホールの浮上
(出典：気象庁 災害時地震・津波速報)

○高知県で液状化が発生しやすい場所

図2は高知県HPの「令和7年度[高知県版]南海トラフ地震による最大クラスの被害想定について」(※①)から抜粋した南海トラフ巨大地震発生時の液状化の可能性分布の一例です。液状化の可能性が大きな地域は、県中央部や県西部の平地に分布しています。

図2は広域表示のために概要しか把握できませんが、お住まいの地域での詳細な地震のリスクを把握しておくことは大切です。この機会に、拡大して詳細表示可能な高知県防災マップ(※②)や自治体提供のハザードマップで、液状化を含む地震による地域のリスクを確認しておきましょう。

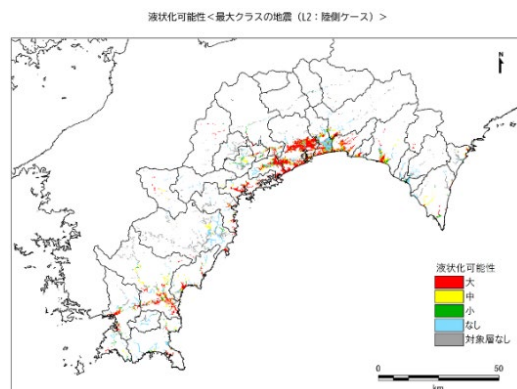


図2 南海トラフ巨大地震発生時(陸側ケース)の
液状化可能性予測図
(出典：高知県 HP)

※① <https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2026030300345/>

※② <https://bousaimap.pref.kochi.lg.jp/kochi-bousai/Portal>